

授業概要

コミュニティ心理学は、心理臨床的諸問題に対して、個人要因の改善だけでなく、その個人を取り巻く環境的要因に対して働きかけ、個人と環境との適合性を高めることで、健康、医療、福祉面における改善を目指そうとします。

本講義では、コミュニティ援助について、心理学的視点からどのようにアプローチするか解説します。その際、とりわけ医療領域を中心に据え、現代日本における国民病とも生活習慣病とも言われている「悪性新生物（がん）」に関わる心理社会的諸問題ならびにその支援について講義します。

授業計画

第 1 回	コミュニティ援助の基本的考え
第 2 回	学校領域におけるコミュニティ援助のための心理学的アプローチ
第 3 回	産業領域におけるコミュニティ援助のための心理学的アプローチ
第 4 回	福祉領域におけるコミュニティ援助のための心理学的アプローチ
第 5 回	医療領域におけるコミュニティ援助のための心理学的アプローチ
第 6 回	医療領域におけるコミュニティ援助の実際： 1-1 患者・家族の心理（主にがん患者）の理解（その1）
第 7 回	1-2 患者・家族の心理（主にがん患者）の理解（その2）
第 8 回	2-1 患者の精神疾患（せん妄、認知症、うつ症状など）とその対応の理解
第 9 回	2-2 患者の精神疾患とその対応（緩和ケアチーム、医療コミュニケーション）の理解
第10回	3-1 医療におけるコミュニケーションの諸問題とその理解
第11回	3-2 医療におけるコミュニケーションの基本的考えと技法
第12回	4-1 患者・家族への心理社会的支援1：個別心理療法・カウンセリング
第13回	4-2 患者・家族への心理社会的支援2：グループサポートによるアプローチ
第14回	4-3 患者・家族への心理社会的支援3：地域活動の実態と問題の理解
第15回	5 コミュニティ支援の拡大：病院から地域へ（患者・家族のレジリエンスを高める）
第16回	

到達目標

- ・コミュニティ援助について基本的考えを理解する。
- ・医療領域におけるコミュニティ援助の具体例として、がん患者ならびにその家族の心理について理解する。
- ・主にがん患者の精神疾患とその対応について基礎的知識を習得する。
- ・地域包括ケアに向けた心理職としての取り組むについて考える。

履修上の注意

心理学の入門的な知識があるほうが望ましい。

予習・復習

配布資料について目を通し、自分の意見や疑問などについてまとめておく。

評価方法

レポート（60%）と各授業のリフレクションペーパー（40%）

テキスト

特に指定はしない。